の連絡を早くしていたゞくといゝですね。それから流木の被害が多い、流木がぶつかつて橋を流したり、家をこわしたりします。貯木場はぜひもつと堅固な塀をつくつたりロープで纏つて材木が流れ出さないようにしたいものです。

坂本・それから農薬の貯蔵ですね、今度も上熊本の農薬倉庫から流れ出したというさわぎがあり、芳野村の農協でも同様なことがありました。それ〴〵の機関で厳重な保管をしてほしいものです。

斉藤・農薬が水につかつたらその被害は広い範囲にわたりますからね、火薬と同様、いや火薬以上に危険なものですよ。

食糧配給を急げ

斉藤・私は六・二六と今度と引続き二度の被害者ですが、寺原は土地が低いので二、三〇ミリの雨でも床下浸水、五〇ミリになると畳がつかるという有様です。今度の水害を世間では七・二六といつていますが、寺原では七・二五六七八水害という位、浸水期が長かつたのです。二十五日の午后七時にはもう床下へ来て九時には床上までつかつたという風です。静かなる攻勢とでもいいますか、ヒタ〳〵と押しよせる水を、夜中にめざめて気がつくと畳が浮いているといつた家が多かつたようです。

私たちもその一人で、皆屋根裏へのがれて助かつたような訳です。

一体寺原というところは、坪井川の遊水地帯で、こゝがあるために下流は助かるようになつています。この特殊性を根本的に解決しなければ永久にこの地帯の水害は免れません。そのためには先ず坪井川の堤防で四〇メートルばかりの間切り下げてあるところを埋めてほしいと思います。もし当局に金がなければ地元の賦役ででもやりたいといつています。流れがおそいので流失がなく、ニュース・バリューがないから新聞でもさわがれませんが、被害は大きいし、零細民が多いので復旧は困難です。測候所の真下にある寺原が、この有様というのは全く皮肉という外ありません。私たち子供の時から六・二六まで床上浸水の経験はないのですから、坪井川の改修が却つて悪かつたのではないかともいわれています。

特に当夜は停電でラジオも聞えず、情況が不明なので闇の中を避難したのですが、警察のパトカーは大変有難かつたです。とにかく天井裏で飲まず食わずの一日を過ごし、夜になつて始めて近所の人が見舞にもらつた握めしを一つづゝ分けてもらつて食べました。

二十七日から米の配給がありましたが不足なので、翌月分の配給を米屋にたのみましたが分けてくれない。衣料はいゝのですが食糧は一日三度の問題ですからね。

たゞ助かつたのは便所の汲取が早かつたことです。

重石・ラジオや消防車で婦人会の炊出しを頼んだのですが、場所によつてそんなところも出来たことゝ思います。食糧の配給を早くすることについては更に研究せねばなりません。今度の災害は夏だつたので、衣料はそう急がなくてもよいというので、寝具としての毛布を早く届くようにしました。しかし秋の台風では時候柄衣料も急がねばなりません。

紫藤・配給は切符制だと時間をくうし直接にすると後の集金に困つたというような六・二六の経験から、今度は市町村長の発行する罹災証明書でよいことにしました。寺原や上熊本は精米所が浸水したのですが、あらかじめ、米も三日分は確保しておりましたし、パン等もあつたので応急の配給には困らなかつたはずです。

坂本・先ず食わせることですからね、そしてからが休ませること……

井上・健軍や京町のような高地に食糧を保管しておいて、いざという時は婦人会が炊出しをするという風にかねて用意してはどうですか。

重石・罹災証明をもたない罹災者もあるわけで、そんな人には配給がないとなると困りますね。

井上・急場だから乞食がきても食糧はやつた方がよい、正確ばかりを狙うと時期を失うおそれもあります。

助かつた救援苗

坂本・坪井川の二本木堰をあけろという要望がありましたが、堰守は老人で、おまけに機械力でないため急場の間に合わなかつたという話もあります。

井上・坪井川の川床を掘下げる工事は昭和十二年に完了の予定でしたが、戦争のためにとう〳〵完成しなかつたようです。

司会・救援苗について紫藤さんから……

紫藤・災害後すぐに県外と県内各地へ救援苗を依頼しました。県外では岡山・福岡・大分・佐賀などから送つてもらい、県内では各郡に一反三十株運動やアゼ一列運動というのをやつて苗を集めました。自衛隊からノベ二百台、民間からノベ二千台のトラックで運んでもらいましたが、昼間では稲が枯れるので夜間を選んで大変ご苦労をかけました。おかげで被害田六六五町歩のうち九三%は植えかえ出来ました。八月十五日以後ではもう遅いので昼夜兼行で植えてもらいましたが大成功といつてよいでしよう。

将来はあらかじめ災害にそなえて予備苗代をつくつておく必要があると思います。

（註、救援苗については別項参照のこと）

美談・反省・希望

司会・今度の災害を顧みてその他に対策等ご感想がありましたら何でも一つ。

（次頁下段へ）

特集

私たちは役立つた

★★★

治山工事　モデル農家　有線放送　この三つのものは、七・二六災害ではつきりとその底力を見せた。

治・山・工・事

熊本市島崎荒尾山

近ごろの災害の多くは、川の上流の林地がくずれたり、谷川が荒れたりしたためで、災害をなくするためには、先ずこうした基本的な治山対策を立てねばならない。

県ではそうした意味で計画建設の一環として、治山事業計画を大きくとり上げ、白川と球磨川の水系に重点をおいて、着々治山工事を実施している。

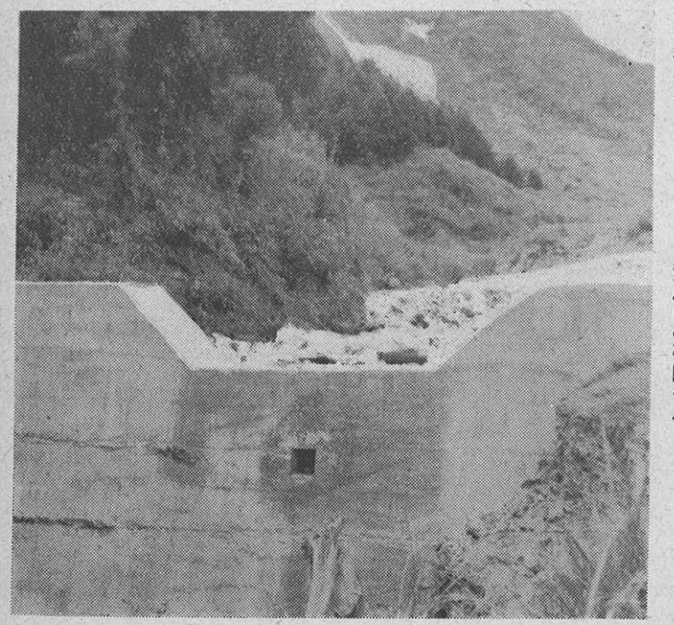
河川上流の山や野は、一旦荒れてくると雨のたびにそれがひろがり、下流に土砂を流すので、河床は年と共に高くなり、いわゆる天井川（河床が附近の地盤より高くなつている川）をつくつて、それが災害発生の原因となるのである。

こうした原因をふせぐためには、先ず山のふもとを固定するために、谷川に堰堤工、谷止工、床固工、護岸工その他必要工事を行い、一方では木をうえて早期緑化を行つている。

治山工事が役に立つ手近な例は熊本市和島崎町荒尾山である。こゝは昭和二十八年六・二六災害の崩壊林地であるが、昭三十一年度特別失業対策事業の一つとして行つた治山工事（堰堤工及び谷止工）によつて今度の七・二六災害ではあの大豪雨にもかゝわらず、防災施設として立派に役目をはたした。

その外、治山工事は、土砂流出防止による発電ダムその他工業並に灌漑用ダムの滞砂或は埋没を防止したり農耕地、家屋、河川、施設鉄道、道路橋梁、その他施設を保護したりするような社会経済的効果によつて民生を安定する上に測り知れない力を発揮するので、今後も益々さかんに行わねばならない。

（治山課）



写真は崩れてきた岩石をくいとめた荒尾山の砂防ダム

坂本・二十六日に本部の連絡が出た時日赤の看護婦さんが数名同行したのですが、これらの看護婦さんも、胸まで泥水につかつて救護活動に努められたのは感心しました。それから天水村の駐在所も罹災したのですが、主人は職務上出かけているので、留守の奥さんが子供は押入に入れておいて、自ら通信連絡に奮斗したのなども美談だと思います。

林田・土地の実態をもう少しくわしく確実につかんでおくことが大切だと思いました。この点大いに反省させられるものがあります。

樋口・自衛隊にも水陸両用の自動車がぜひ必要だと痛感させられました。

坂本・警察ではゴムボートなので、陸地は十四人がかりで担いで行つて使つたわけです。

樋口・自衛隊への出動要請は混成団へ直接申込まれる方が早いのですから御注意まで……

木郷・情報となると警察が一番早く、警察で三分位で出来ることも県では三十分かゝるということになります。

井上・消防署への電話連絡に時間がかゝる時は「火事」というとすぐ継ぎます。それから江図湖の貸ボート利用ということも考えていゝのではないでしようか。

司会・ではこの辺で、いろ〳〵有がとうございました。